

令和5年度

奈良県立国際中学校入学者選抜検査問題

適性検査Ⅰ

注 意

- 1 指示があるまで開いてはいけません。
- 2 解答用紙は2枚あります。それぞれに、受験番号を忘れないように書きなさい。
- 3 解答用紙の※印のところには、何も書いてはいけません。
- 4 答えは必ず解答用紙に書きなさい。

□ 次の文章を読み、各問に答えなさい。

読書とは区別される「思索」という「答み」^①は、どのようなものなのでしょうか？ そこで、ショーペンハウアーの議論を参考にしつつ、「自分の頭でものを考えるとはどういうことなのか？」という問題について考えていきます。

まずは、次の文章を皮切りに「思索」という営みについて考えていきます。

読書は、他人にものを考えてもらうことである。本を読む我々は、他人の考えた過程を反復的にたどるにすぎない。習字の練習をする生徒が、先生の鉛筆書きの線をベントたどるようなものである。だから読書の際には、ものを考える苦勞はほとんどない。(中略)ほとんどまる一日を多読に費やす^②。キンベン^③な人間は、しだいに自分でものを考える力を失っていく。

ショーペンハウアーにとって「本を読む」という行為は、「他人の考えた過程を反復的にたどる」という行為に他なりません。ここから、「本」が「他人の考えた過程」として理解されていることが明らかになります。

そして、そのような本を単に数多く受容するということは、様々な人たちがバラバラに考えたことを断片的につなぎ合わせていくことに他ならないのです。

続く「習字の練習」の比喩も大変分かりやすいものです。習字の先生自身は、当然のことながら自分で文字を書いています。ですが、それをなぞる生徒たちは、別に自分自身で文字を書いているわけではないのです。「薄い線の上をなぞる」という行為と、「自分で文字を書く」という行為は、やはり別物です。

つまり、少なくとも「本に沿って文字を読む」という行為だけでは、自分自身で考えていることには全くならないのです。この比喩から私たちは、「自分の頭でものを考えるとは、自分自身で文字を書くこと(他人の思想を単に反復するのでなく、自分の思索を展開すること)である」という教訓を得ることが出来ます。

こうしたことを振り返りもせずに、他人の書いた文字ばかりをなぞっているのでは、それは「その文字の通りになぞらされている(考えさせられている)」に過ぎないのです。こうした意味で、単に本を読むだけでは、私たちは何かを考えさせられているという隷屬的な状態にとどまり、結果、自らの思考力や洞察力はほとんど失われてしまうことになるのです。

さて、ショーペンハウアーは、私たちが読んでいる本は砂の上に残った「足跡」のごときのものであるとも述べています。この表現は、先ほどの習字の比喩に近いものがあります。つまり、先人たちは、自分の足でその道を通った(自分自身でものを考えた)からこそ、そこに足跡(書籍)を残すことができたのです。

そして、私はこの「本」に「足跡」という比喩を手がかりに、「考えること」とは、まさに「走ること」であると理解します。

このような考え方を踏まえると、「単に本の内容をインプットする」という読書の仕方は、実際には何を行ってしていることになるのでしょうか？ それは「足跡に沿ってのんびり歩くだけの行為」に他なりません。目の前に道があつて、そこに誰かの足跡があつて、その足跡をたどるだけの行為。これはこれで、ある種の觀光名所を楽しんで、息抜きウォーキングにはなったりするかも知れませんが、それだけでは一向に走る練習にはならないでしょう。「考える力」を身につけるためには、自分自身で走るべきルートを選択し、そのルートの吟味と自らのフォームの反省を^④「考えず」行うという労苦を積み重ねる必要があるのです。

ここに関しても、先ほどの「習字」の例と同様の事態を指摘することが出来るでしょう。すなわち、所定の足跡をたどるだけの思考を続けてしまうと、私たちはしだいに他人に考えさせられてしまうようになるのです。

他人の残した足跡だけを追いかけるといふ思考の様態は、きわめて従

属的な性格を有しているものです。これは、知識によって思考が支配されている状態であると言えます。

さて、私たちは「考えること」を「走ること」、「足跡」に「本」という比喩を手がかりに、さらに「考える」という行為の本質について考えてみたいと思います。

大切なのは自分で走ることであり、地面に残された足跡をたどることではない——このように言われてしまうと、もしかしたら、「もう本を読む必要はないのか」と思われる読者も出てきてしまうかもしれません。

しかし、そういうことではありません。本は、私たちにとって必要な存在であり続けます。なぜなら、先人の「足跡」を全く顧みないままに走り出しても、私たちは道なき道を前に途方に暮れてしまうからです。

例えば、子育てに悩んでいる人が、いきなり「教育とは何か？」ということを考えることは難しいでしょう。同じように、「今のままの社会ではいけない」と思っている人が、いきなり「正義とは何か？」ということを考えるのも難しいと思います。自分の足で走ると言っても、「まず、どこから走り出せば良いのか？」「何かから考え始めれば良いのか？」ということを考えることは、非常に難しいことなのです。

したがって、「考える力」を身につけるトレーニングを有効的に行うためには、「足跡」(本)と共に、「一緒に走る(思索する)」ことが必要です。このことを言い換えるならば、「問い」を持ちながら読書をする姿勢こそが求められているのです。

もちろん、その過程のどこかで、先人とは別のコースを走り始めることになると思われれます。具体的には、本を読みながら「本当にそうだろうか?」、「別の考え方があるんじゃないか?」と感じたときが、その分かれ道です。そこからは、今までは別の足跡のコースをたどる(読む本を変える)かもしれないし、今まで誰も通ったことのない道を走る(自分で新しく文章を書く)かもしれません。

いずれにせよ、先人の足跡を参考にしつつ「自分の足で走る」ことが重要なのです。

(山野弘樹「独学の思考法 地頭を鍛える「考える技術」」による)

(注) ショーペンハウアーは十九世紀にかつやくしたドイツの学者

隷屬に他の支配を受けて、言いなりになること

洞察力に物事を見ぬく力 吟味に検討 顧みないに気がしない

(一) □ ①の漢字の読みを平仮名で書き、□ ②、③の片仮名を漢字で書きなさい。

(二) ——— 線Aが直接かかる部分はどれですか。次のア～エから一つ選び、その記号を書きなさい。

ア 「正義とは何か？」ということを イ 考えるのも
ウ 難しいと エ 思います

(三) 次のア～ウについて、この文章で筆者が述べている内容として正しいものには○、正しくないものには×を、それぞれ書きなさい。

ア 本を読むことは必要ないという意見もあるが、読書量を増やすことで思考力を身につけることができる。

イ 他人の文字をなぞらずに自分自身で文字を書くということは、知識に思考が支配されている状態を示している。

ウ 「考える力」を身につけるためには、「問い」を持ちながら読書をする^⑤ことが有効である。

(四) ——— 線Bについて、次の条件①～④に従って書きなさい。

条件① 二段落構成で書くこと。

条件② 第一段落では、「自分の足で走る」ことがなぜ重要なのかあなたの考えを書き、第二段落では、「自分の足で走る」ためにあなたはどのような生活を送りたいかを書くこと。

条件③ 原こう用紙の使い方に従って、二百字以上三百字以内で書くこと。

2 ひかるさんとみらいさんの会話文を読んで、各問いに答えなさい。

ひかる：社会で起こっていることに目を向けて、色々な人といっしょに取り組むことができる人のことをグローバル人材と呼ぶらしいよ。
 みらい：ノーベル賞を受賞した山中伸弥さんや、国際連合でかつやくした緒方貞子さんもグローバル人材と言えるね。A 歴史上の人物にもそのような人たちはいたのかな。
 ひかる：今も昔も、世界にはグローバルな視点で物事を考える人たちがたくさんいると思うよ。そして、その人たちが協力して、世界の国々がつながり、課題の解決に取り組んできたのではないかな。B 現在の日本と世界の国々とのつながりについて、もっと調べてみようかな。
 みらい：わたしはC 昔の日本と世界の国々とのつながりについて、興味をもったよ。

(1) みらいさんは、下線部Aについて調べ、2人の人物の業績をまとめました。(①), (②)に当てはまる人物の組み合わせとして正しいものを下のア～エから1つ選び、その記号を書きなさい。

(①) の業績

アメリカでの研究の後、アフリカなどで黄熱病という伝染病の研究に取り組んだが、自分自身が黄熱病にかかりなくなった。

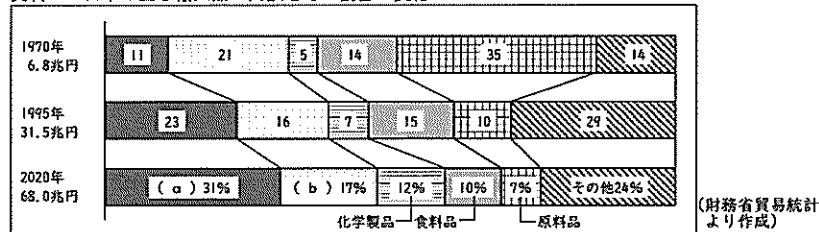
(②) の業績

7才のときに、アメリカに渡り、10年以上アメリカで教育を受け、帰国後、学校をつくるなど、女子の教育に力をつくした。

- ア ① 北里柴三郎 ② 津田梅子 イ ① 北里柴三郎 ② 与謝野晶子
 ウ ① 野口英世 ② 津田梅子 エ ① 野口英世 ② 与謝野晶子

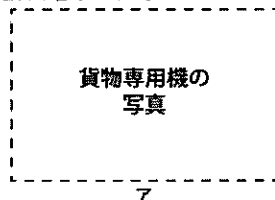
(2) ひかるさんは、下線部Bについて調べ、資料Iを見つけました。(a), (b)に当てはまる言葉の組み合わせとして正しいものを下のア～カから1つ選び、その記号を書きなさい。

資料I 日本主な輸入品の内訳とその割合の変化

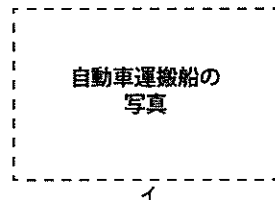


- ア a 機械類 b せんい品 イ a 機械類 b 原油など燃料
 ウ a せんい品 b 機械類 エ a せんい品 b 原油など燃料
 オ a 原油など燃料 b 機械類 カ a 原油など燃料 b せんい品

(3) ひかるさんは、さらに、貿易を行う際の輸送手段について調べました。日本が自動車輸出の際に主に用いられる輸送手段は、アとイのどちらですか。アとイのどちらかの記号と、その輸送手段が用いられる理由を書きなさい。



ア



イ

(4) みらいさんは、下線部Cについて、興味をもった出来事を次のようにまとめました。()内に当てはまる言葉を書きなさい。

<世界と対等な関係を築ききっかけとなった出来事>

ノルマントン号事件の風刺画

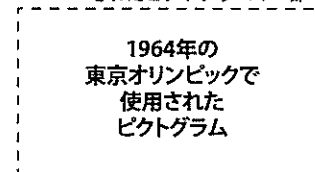
ノルマントン号事件

江戸時代の終わりに江戸幕府が欧米諸国と条約を結んだが、その内容は不平等なものであった。

日本にとって不当な判決であったが、条約で()を認めていたためにくつがえすことができなかった。このことをきっかけに、国内では条約改正を求める声が高まった。

(5) みらいさんは、さらに、第二次世界大戦後に日本が国際社会に復帰し、オリンピック・パラリンピックをアジアで初めて開催したことについて調べました。この大会では、資料IIのように競技種目を絵で表現するピクトグラムが使用されました。みらいさんは、電車内でも資料IIIを見つけ、さまざまな場所でピクトグラムが使用されていることに気づきました。これらを使用することの良い点について書きなさい。

資料II 1964年の東京オリンピックで使用されたピクトグラムの一部



資料III 電車内で見つけたピクトグラム



ひかる：現在、世界の国々は協力して地球規模の課題の解決に取り組んでいるんだね。
 みらい：それらの解決に向けたSDGsという目標があることを学んだよね。
 ひかる：わたしも、もっと日本や世界の国々のことについて関心を高め、学び続けたいな。

(6) ひかるさんとみらいさんは、下線部Dについて、17の目標の中から「住み続けられるまちづくりを」をテーマとして話し合い、次のようにまとめました。~~~~~について、あなたならどのように考えますか。下の条件に従って書きなさい。

これまで、わたしたちは自分たちが住んでいる地域やその他のさまざまな地域における人々の生活について学んできました。これからは、学んだことを生かして、自分たち自身で考えたり、行動したりしなければいけないことに気づきました。人口が増えている地域や減っている地域がそれぞれもつ課題とは何か、どのようなまちであればわたしたちが快適に暮らせるかなどについて、もう一度考えてみようと思います。



(条件) ・解答らんIには、人口が増えている地域または減っている地域がもつ課題について、どちらかの地域の課題を20字以上40字以内で書きなさい。なお、解答らんIの()には「増えている」または「減っている」を書きなさい。
 ・解答らんIIには、解答らんIに書いた課題を解決する方法と、あなたがどのように考えた理由について、80字以上100字以内で書きなさい。